

## ICTを活用した教育体制構築に関する実証事業 報告書

<b>1. 学校名</b>	
シカゴ日本人学校	
<b>2. テーマ</b>	
コロナ禍におけるICTの活用 コロナ禍をチャンスとした「授業改善」、「教材の開発」、「現地校との交流学习」の推進	
<b>3. 取組の概要</b>	
(※報告書の内容を要約し、200～400字程度で記載してください。)	
図書室や教室などのWi-Fi環境を強化し、コロナ禍における学習環境を整備する。4月から実施してきた自宅でのリモート学習で活用したG-Suite (Classroom、Meet等)を登校開始後も授業等で継続使用していく。そのために、図書室については新たなアクセスポイントを設置し、各教室については既存のWi-Fiの強化を行う。	
<b>4. 取組の背景・目的</b>	
(※非常時でも途切れない「学びの保障」の在り方と関連づけて記述してください。)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、生徒のインターネット使用は、PC教室のみで可能な状況である。コロナ禍では、<u>※</u>PC教室への移動が困難で教室の大きさ的にも使用することが難しい。また、PC教室は予約制でクラスずつでしか使用でき合い不自由な環境である。(図書室は教室として使用予定)</li> <li>・感染防止のため、対面の授業や話し合い、朝会や集会、児童会や生徒会活動、現地との交流等が困難であるため、登校後も各教室でミーティングツール(Meet、Zoom等)の使用が必要である。</li> <li>・<u>※</u>紙(プリント類)を使用する学習が難しいため、Google Classroom等のツールを使用して課題の提示や提出を行う。教員管理のもとテストやアンケート調査等の実施もPC上で行える。</li> <li>・リモート学習では、コロナ禍における自宅滞在期間中、自宅での個々の児童生徒の学習のサポートを実施してきた。Classroomを活用することにより、学習計画や提出物の自己管理や学習についての個別支援が可能となった。児童生徒の学習習慣や学習意欲も向上している。登校後もClassroomを学校生活の中で継続して活用し、更なる効果を狙っていきたい。</li> <li>・リモートラーニングでは、有効な多くの教育ソフトや学習コンテンツを利用することができた。登校後もこれらを継続的に使用していきたい。</li> </ul> <p>※イリノイ州のコロナウイルス感染感染症予防に関する規定:「6フィート(約2メートル)のソーシャルソーシャルディスタンスを保つ」、「異なる学年は1つの場所で活動できない」、「50人以上の集会活動禁止」、「児童生徒の移動は最小限にする」、「紙やモノを共有しない(他人が触ったものを触られない)」等</p>	
<b>5. 取組の実施日程</b>	
日程	取組内容
8月	図書室にWi-Fiのアクセスポイントの設置 各教室のWi-Fiの強化 児童生徒が使用するWi-Fiの設定
9月	全教員が校舎内の各教室からオンライン授業開始 校内研修実践報告会(1学期の実践含む) 校内研修授業研究会

	<p>インターネット環境の整備 児童生徒用の PC の設定作業</p>
10月	<p>登校開始(児童生徒が学校で PC を使用しての授業開始) オンラインによる英語授業(少人数クラス)開始 オンラインによる学校朝会や集会活動の開始 オンラインによる現地施設のバーチャル見学開始 校内研修実践報告会(1学期の実践含む) 校内研修授業研究会 児童生徒用の PC の設定作業 インターネット環境の調整</p>
11月	<p>校内研修実践報告会(1学期の実践含む) 校内研修授業研究会 インターネット環境の調整</p>
12月	<p>オンラインによる現地校との交流学习開始 校内研修実践報告会(1学期の実践含む) 校内研修授業研究会 インターネット環境の調整 インターネットの強化</p>
1月 ～ 3月	<p>オンライン授業参観開始 校内研修実践報告会 校内研修授業研究会 検証のためのアンケート調査実施・分析・成果の検証 研究まとめ(冊子)の作成</p>

**6. 具体的な取組内容** (※詳細に記載し、付属資料があれば添付してください。)

**【9月から 全教員が校舎内の各教室からオンライン授業開始】**



各教室の Wi-Fi 環境が整備され全教員(25名)が各教室からオンライン授業をすることが可能となった。

**【10月からの登校開始後におけるオンラインによる英語科の授業(少人数クラス)開始】**



10月からの登校開始後、異学年で構成されている英語科の5段階習熟度別少人数クラスの授業は、イリノイ州の決まり(異なる学年は1つの場所で活動できない)により、英語科教室を使つての対面授業ができない状況となったため、オンラインでの授業を実施した。児童生徒はホームルーム教室の自席から、個々の端末を使用して異なる授業に参加、また、マイク付きヘッドフォンを使用することで各自が、教室移動をせずに異なる授業を受けることが可能になった。

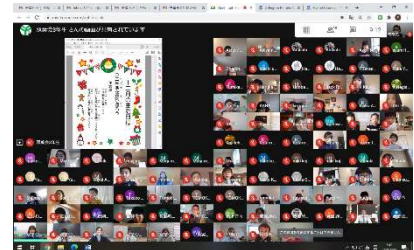
【10月からの登校開始後、オンラインによる学校朝会や集会活動の開始】



全校朝会での表彰



行事や朝会へは各教室のモニターを見て参加



各自の端末を使つての縦割り活動



委員会活動



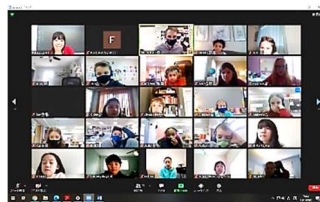
生徒会活動



「Kahoot!」(<https://kahoot.com/>フリーソフト)を使用しての百人一首大会の実施

コロナ禍におけるイリノイ州の規則「異なる学年は1つの場所で活動できない」、「50人以上の集会活動禁止」を受け、行事や朝会・集会活動は、登校開始後は、中止していた。インターネット環境の整備が整ったため、全ての児童生徒が教室の自席からオンラインで行事や集会・朝会に参加する可能となった。

【オンラインによる現地校との交流学習】



ブレイクアウトルームを活用したオンライン交流学習(小学部)





ブレイクアウトルームを活用したオンライン交流学習(中学部)



コロナ禍となり、現地の交流相手校との行き来も途絶え、アメリカに居ながらも学んだ英語を使う機会が著しく減ってしまったため、オンラインによる交流学習を実施した。ブレイクアウトセッションを使った少人数のグループで、Show&Tell等のアクティビティーを行った。

## 7. 取組の成果

(※どのような課題をどのように解決したかや、生徒・児童への効果等について詳細に記載し、成果物があれば添付してください。また成果がどのような観点で他の学校の参考になるかも記載してください。)

### 課題1

・各教室でインターネットを使用できる環境整備

⇒各教室のWi-Fi環境が整備・強化され、全教員(25名)が学校の各教室から、自宅にいる児童生徒にオンライン授業をすることが可能となった。

⇒児童生徒全員が教室でPCを使用することが可能になった。

### 課題2

・登校開始後、異学年で構成されている英語科の5段階習熟度別少人数クラスの授業が対面できなくなった。(コロナ禍におけるイリノイ州保健局の規則「異なる集団での集会の禁止」)

⇒オンラインでの授業の実施を計画した。インターネット環境が整備され、児童生徒はホームルーム教室の自席から、個々の端末を使用して異なる授業に参加、また、マイク付きヘッドフォンを使用することで各自が、教室移動をせずに異なる授業を受けることが可能になった。

### 課題3

・コロナ禍におけるイリノイ州の規則「異なる学年は1つの場所で活動できない」、「50人以上の集会活動禁止」を受け、行事や朝会・集会活動は、登校開始後に実施できなくなった。

⇒インターネット環境の整備が整ったため、全ての児童生徒が教室の自席からオンラインで行事や集会・朝会に参加する可能となった。

### 課題4

・コロナ禍となり、現地の交流相手校との行き来も途絶え、アメリカに居ながらも学んだ英語を使う機会が著しく減ってしまった。

⇒オンラインによる交流学習を実施した。ブレイクアウトセッションを使った少人数のグループで、Show&Tell等のアクティビティーを行った。

### 成果物

※添付資料「令和2年度 校内研究内容一覧」No.1~11(9つ)の実践報告

## 8. 今後の課題・展望

(※次年度以降への継続性及び発展性に言及してください。)

### 発展・継続 1

・オンラインによる交流学习を継続・発展して実施する。

※添付資料「Futabakai Exchange Program Notes」「2021年度国際理解教育活動計画」参照

### 発展・継続 2

・GIGAスクール構想に向けた取組としてリモート授業を踏まえた実践研修を引き続き校内研究としていく。

研究主題の例〈ICTを活用した効果的な授業のあり方〉〈表現力・思考力を高めるためのICTを効果的に活用した授業〉

※添付資料「校内研究のまとめ」参照

## 9. 所感

コロナ禍をチャンスとし、授業改善、教材の開発、現地校との交流学习等、大きな一歩を踏み出すことができた。今後もGIGAスクール構想に向けた取組としてオンライン授業を踏まえた実践研究を継続していくことが、来年度本校が目指す姿を具現化することであると考え、「ICTを活用した効果的な授業のあり方」、「表現力・思考力を高めるためのICTを効果的に活用した授業」等を主題として、全教職員で研究に取り組んでいきたい。

※提出いただいた報告書や成果物は、本事業の取組成果として公開する予定です。また、記載いただいた内容は文部科学省や海外子女教育振興財団のその他の資料にも使わせていただく可能性があります。

※記入欄は適宜拡張してください。